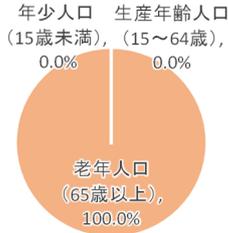


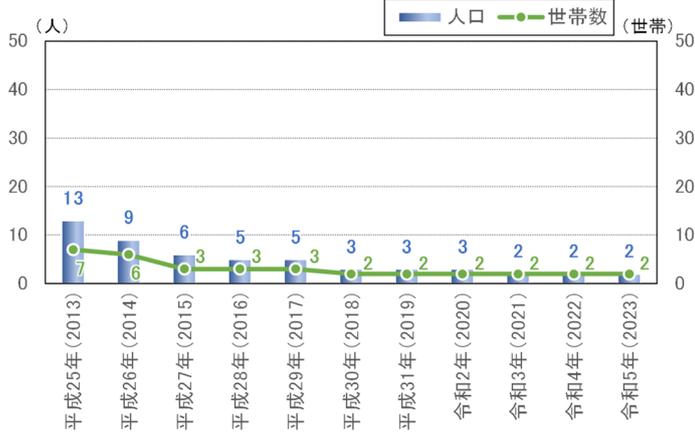
霧 滝 (きりたき)

人口・世帯数等 (令和5年4月)	
人口	2人
世帯数	2世帯
高齢化率	100.0%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、周囲を山に囲まれた標高500~600mの高地に位置する。菅原・肥前畑の2集落からなる。

地名由来 霧ヶ滝にちなんだ地名。「たじま地名考」日本海新聞

歴史等 室町時代にはすでに村ができていたとされる。霧滝集落は、小椋林蔵氏の先祖一家族が播州戸倉より畑ヶ平に移り住み、鬱蒼たる雑木林の中に居を定め、木地業を営みつつ畑を開き、稗・そば・豆などを作り、次第に水田に変えていき、その後、何処からともなく移住者が増え、それが分家したりして増加していったと伝わる。

霧滝は、山籠と呼ばれる肥前畑・菅原・横坂の3つの集落にあたり、近世は岸田村の枝郷であった。近世の岸田村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。明治・大正年間には青下村の一部であり、青下から分かれて区長を置いたのは昭和3年(1928)であり、山籠の3村を霧滝と称し、23戸があった。

昭和38・42年(1963・1967)の豪雪で集落内に死亡者が出たため、全戸が大宇湯小字神谷に住宅を建て、年間あるいは冬季間を過ごすようになった。ダイコンなどの高冷地野菜を栽培する。

これまで把握している文化財

文化財の件数 31件 (うち指定等文化財 2件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等		
有形文化財	建造物	建築物	0	3	0	
		石造物	3		0	
		工作物・その他の構造物	0		0	
	美術工芸品	彫刻	5	8	11	0
		絵画	0			0
		工芸品	3			0
		書跡・典籍	0			0
		古文書・歴史資料・考古資料	0			0
無形文化財	音楽	0	0	0		
	演劇	0		0		
	工芸技術	0		0		
	その他の無形文化財	0		0		
	信仰の場	4		4	0	
有形の民俗文化財	祭具	0	0			
	民具	0	0			
	その他の有形の民俗文化財	0	0			
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	0	0	0		
	民俗技術	0		0		
	食文化	0		0		
	民間説話・俗信	0		0		
記念物	遺跡	その他の無形の民俗文化財	0	5	0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	2		0	
		古墳・その他の墓	0		0	
		城館跡・神社跡	1		0	
		街道・古道等	2		0	
		戦争遺跡	0		0	
		その他の遺跡	0		0	
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	5	0	
		海岸・海浜・島嶼	0		0	
		河川・滝・渓谷・湖沼	5		2	
		公園・庭園	0		0	
		その他の名勝地	0		0	
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	6	0	
		植物	4		0	
		地質鉱物	2		0	
	文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0		



霧ヶ滝



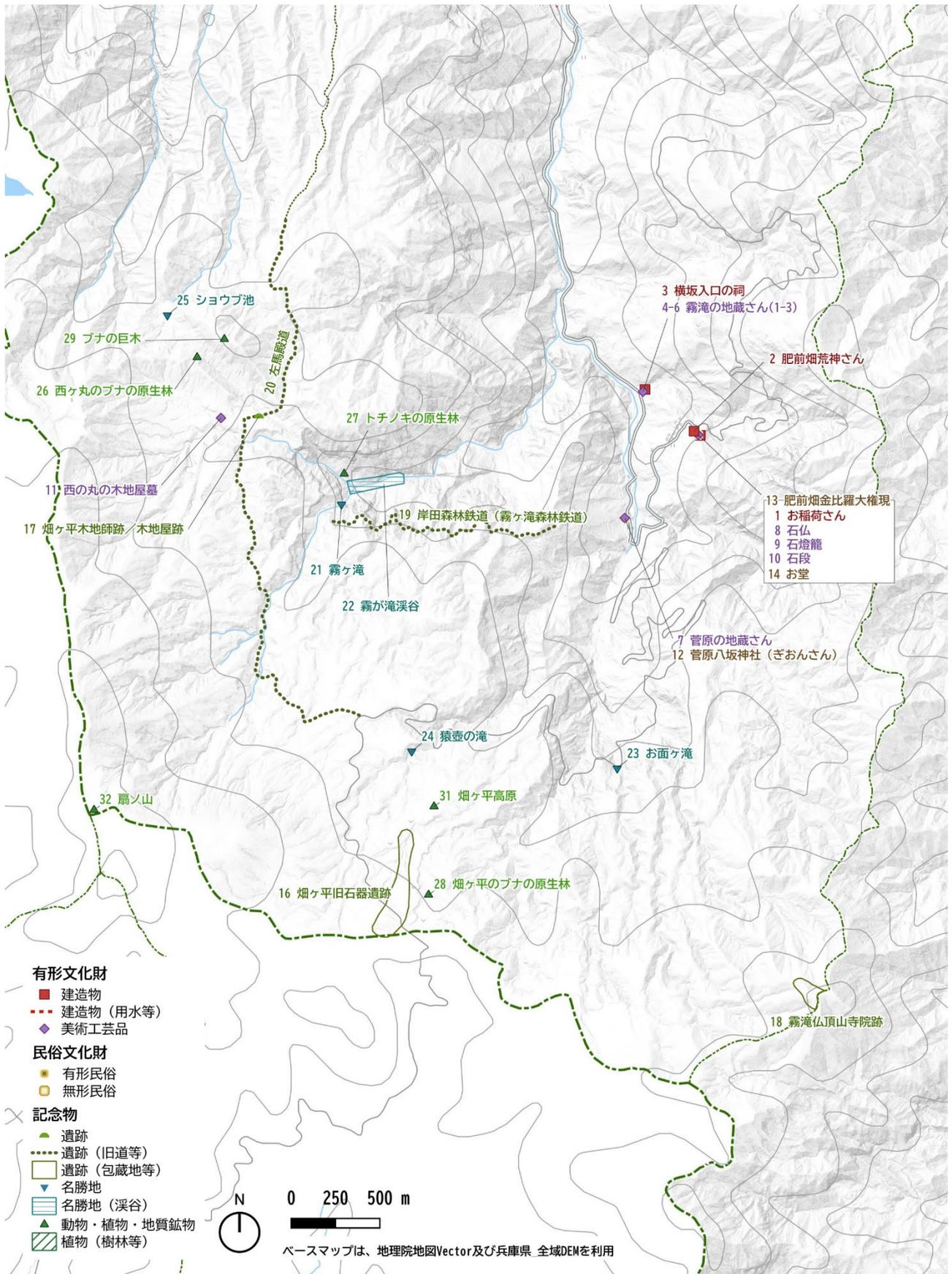
シヨウブ池



原生林(扇ノ山)

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6-14 霧滝

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	肥前畑金比羅大権現のお稲荷さん	金比羅さんの奥に祀ってある。
	2	肥前畑荒神さん	肥前畑から金比羅山の参道及び古くは生活道路であった小代（香美町）越「みつぶさ峠」への道の横にある。
	3	横坂入口の祠	横坂への入口に安置されている石仏の上に祠があり、大正元年（1912）の岸田川洪水に伴い建設された旨の由緒書がある。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	霧滝の地蔵さん(1)	45×25cm の石像。林道から分かれる横坂の上に建てられている。風化が進んでいる。
	5	霧滝の地蔵さん(2)	50×30cm の石像。林道から分かれる横坂の上に建てられている。風化が進んでいる。
	6	霧滝の地蔵さん(3)	40×25cm の石像。林道から分かれる横坂の上に建てられている。風化が進んでいる。
	7	菅原の地蔵さん	仏ヶ尾より発見して持ち帰り、石祠に首だけの地蔵を祀るが、心ない人に持ち去られたため、明治 30 年（1955）頃に石屋に刻んでもらって祀ったものである。
	8	肥前畑金比羅大権現の石仏	お堂の中に祭ってある。色付がしてある。
工芸品	9	肥前畑金比羅大権現の石燈籠 (1905 年建立)	明治 38 年（1905）10 月 10 日建立。岸田、青下、紙水、新屋、相岡、千谷村の名がみえる。石工は青下畑太郎。
	10	肥前畑金比羅大権現の石段 (1907 年建立)	明治 40 年（1907）旧 6 月 10 日建立。照来村飯野敷八等中井富蔵、もう一方の石段には大谷村、実由村、小長迫の名前があり、当時の信仰の広さがしのばれる。
	11	西の丸の木地屋墓 (1790 年建立)	「う江門娘 西雲妙清信女塔 寛政二戌年九月十八日 小椋長五良母」と刻まれている。小椋の小が不自然な一にあるが、これは運搬中に欠損したものか、彫刻時の失敗と思われる。高さ 80cm、幅 50 cm の自然石。他にも数基の墓石がある。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	12	菅原八坂神社 (ぎおんさん)	素戔鳴命、稲田比売命、八柱御子神を祭神とする。祭日は旧 6 月 11 日。小椋重左衛門という人が京都に向いて勧請したもので、今から百数十年前と伝わる。社は昭和 38 年（1963）のなだれにより押しつぶされ、ブロックで建て替えられている。山の神さんも合同で祀られている。
	13	肥前畑金比羅大権現	山崩、大洪水のために地神として四国に出向き勧請して祀ったもので、建立札には「文久三亥年（1863）仲秋大吉祥日造立之 金比羅堂 本願主田村左右衛門 世話人岡野空兵衛 氏子中 大工仁左衛門」と記されている。戦時中には武運長久祈願の参拝者があとをたたず、祭日（6 月 10 日）には奉納相撲も行われていたという。現在ご神体は面沼神社へ移されている。
	14	肥前畑金比羅大権現のお堂	このお堂の奥に金毘羅山がある。堂の中に炉がつくってあり、こもり堂としても使用されていたと考えられる。石仏やお札が祀ってある。現在は面沼神社へ移されている。

分類	番号	名称	概要
信仰の場	15	霧滝の山の神	霧滝分校のすぐ後方の森に祀ってある。昭和15年(1940)、霧滝分校移転増築資金として、ここに生えていた3抱え半もあるケヤキの大木、いた木等を伐り倒した。あまりにも立派なものであったため、伐採前に神主に祈祷してもらって切り倒し、その後、山仕事の無事平穏を祈り、部落全体の鎮護を願うところから「石のこら」をほり、神主に祈祷してもらって山の神として祀ってある。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	16	畑ヶ平旧石器遺跡	旧石器時代の散布地。標高1,000m前後の高冷地野菜の菜園内及び新造成地内より縦長型のナイフ形石器多数を出土。
	17	畑ヶ平木地師跡 ／木地屋跡	集落跡。畑ヶ平高原の中央東。木地師の住居跡や耕作に用いた平地、墓碑数基が残存する。戒名などを彫った板碑からは寛政の年号が読み取れる。
城館跡・ 寺社跡	18	霧滝仏頂山寺院跡	平安時代の寺院跡。仏ヶ尾の山頂に近い尾根の平坦部に、平安時代の廃寺があり、礎石が残っているという。
街道・古道等	19	岸田森林鉄道 (霧ヶ滝森林鉄道)	昭和15～20年代後半まで鳥取営林署が切り出した木材を搬出するための森林(トロッコ)鉄道。現在もトンネル・線路跡などが残っている。
	20	左馬殿道	江戸時代の初め、若桜(鳥取県)と二方(新温泉町)を支配していた山崎氏が往来し、木地師との関係も考えられる道。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・ 溪谷・湖沼	21	霧ヶ滝	落差65m。霧ヶ滝溪谷の中であり、水流が20m落下して岩盤にあたり、40m落ちる間に霧状となり、滝壺がないところから名前がついた。 県指定名勝(「霧ヶ滝溪谷」として)
	22	霧ヶ滝溪谷	岸田川支流三倉谷川の上流一帯は扇山(1,310m)、上山高原(910m)を源流とした落差と浸食の激しい溪谷で、大小の奔流、奇岩、大石並びに絶壁・断崖・瀑布が連続し、豪壮な溪谷美を形成している。景勝の中心となる霧ヶ滝は、この三倉谷川と二次支川霧ヶ谷川の合流点にかかるもので、落口から上部約18mの高さを急坂二段に落下し、高さ64.5m、幅45mの大岸壁を一気に落下している。落水は途中で飛散し霧状となるため、滝壺を形成するに至らず、滝の直下は常時水煙と雲霧が立ちこめ、壮大な中に幽幻な気配が満ちている。 県指定名勝
	23	お面ヶ滝	落差60m。霧滝地区から畑ヶ平高原に至る林道沿いにある滝。水量が多いときは特に迫力がある。
	24	猿壺の滝	落差5m程度の小さな滝であるが、岩肌から何本にも枝分かれして流れ落ちる姿は、周囲の緑や苔むした岩肌と一体となって美しい景観をつくりだしている。
	25	ショウブ池	広葉樹に囲まれた静かな水面は、周囲の風景を反映し、表情豊かな四季の変化を見せてくれる。この池は農業用水用のために造られた池であり、トンボなどが集まる野生の生き物にとっての憩いの場にもなっている。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	26	西ヶ丸のブナの原生林	ブナの原生林には多種多様な生き物が暮らしている。シカやテン、ウサギ、イノシシ、タヌキのほか、オオルリ、コゲラ、ヤマゲラ、イヌワシ、ツキノアグマなども生息している。昭和30年(1955)頃、杉の植林等により奥山の豊かな生態系は徐々に失われてきたが、現在は地域住民などが中心となって自然再生へのさまざまな取組を行っている。
	27	トチノキの原生林	上山・畑ヶ平の高原地帯、霧ヶ滝・小又川渓谷などは、溶岩台地上にブナやミズナラ、トチの原生林がみられる。兵庫県レッドリストでは、扇ノ山、霧ヶ滝周辺のトチノキ林は貴重性の高いものとされている。
	28	畑ヶ平のブナの原生林	日本海側では海拔700m以上の地帯が温帯気候下にあり、ブナ・ミズナラを中心に、沢筋ではトチなどの夏緑広葉樹が極相林となる。兵庫県にはこれらの極相を示す自然林も少なくなったが、鳥取県境の氷ノ山、扇ノ山山塊にはまだ見ることができる。この地帯は多量の積雪があり、高木層はブナ、ミズナラが優占し、低木層にはチシマザサの群生とともに、ほふく性のヒメモチ、エゾユズリハ、ハイシキミなどが分布する典型的な裏日本型ブナ林が発達している。しかし、南斜面などでは海拔が低くなるにしたがい、カエデ類やクロモジの出現頻度が高くなり、表日本型ブナ林の要素が強くなる。
	29	ブナの巨木	県下第3位のブナの巨木。
地質鉱物	30	畑ヶ平高原	高原景観。扇ノ山東方の中腹。霧ヶ滝など扇ノ山溶岩が要因で形成された滝がみられる地形及び植生は、兵庫県レッドリストの「地形」「自然景観」の分野でいずれもBランク(地方的価値、都道府県の価値に相当するもの)に位置付けられている。
	31	扇ノ山	扇ノ山火山群(噴石丘など)、扇ノ山火山岩類(紫蘇輝石安山岩など)は、兵庫県レッドリスト(地質)ではBランク(地方的価値、都道府県の価値に相当するもの)に位置付けられている。

